

チュートリアル・セミナー1

調査への回答の偏りを理解する・検出する・調整する

企画・司会：高橋雄介（京都大学）

話題提供：増田真也 氏（慶應義塾大学）

話題提供：荒井清佳 氏（大学入試センター）

話題提供：尾崎幸謙 氏（筑波大学）

話題提供：登藤直弥（東京都立大学）

企画趣旨：

調査研究に基づくデータには、参加者側の個人差傾向としての回答バイアスや意図的に不誠実な回答を行うバイアスが付き物である。調査の設計そのものは仮に十分であったとしても、何らかの原因によって回答に偏りや隔たりが生じる場合、そのデータをそのまま分析すると、真の結果や効果を見誤る可能性がある。すなわち、それらの回答バイアスに関する適切な理解・検出・調整なくして、教育心理学における適切な調査研究は成し得ないと言っても過言ではない。本チュートリアル・セミナーでは、この回答バイアスを積極的に取り上げ、(1) 調査データにはどのようなバイアスが生じ得るのかを理解し（調査前）、(2) 不注意・不誠実な回答を機械学習を用いて検出するための術を知り（調査中）、(3) それでもなお、バイアス含みのデータを分析せざるを得ない時のために、統計的因果推論のひとつの手法として、傾向スコア・マッチングを用いた調整について理解する（調査後）ことを目的とする。